

■屋内緑化コンクール2022 受賞結果・授賞理由一覧

今回の授賞においては、優秀な作品から賞を提供して下さる団体にふさわしい作品を選びました。

審査日：令和4年7月26日
 応募点数：作品部門17点 緑の取り組み部門3点 計19点
 審査委員：町田ひろ子 町田ひろ子アカデミー代表取締役（審査委員長）
 飯島健太郎 東京都市大学 環境学部 環境創生学科 教授
 槇島みどり 東京農業大学客員教授 景観デザイナー
 豊田正弘 兵庫県立淡路景観園芸学校 教授
 前田悟 屋内緑化推進協議会会長

作品部門受賞者

授賞	タイトル	所在地	受賞者	受賞理由
農林水産省農産局長賞	イオンモール白山 在来種を用いた大規模屋内緑化	石川県白山市	株式会社グリーンバル イオンモール株式会社	建物の中心に位置する「かがやきストリート」に大規模室内緑化を設けている。在来種を含む約30種以上の植栽で構成され、樹高の違う大小さまざまな植物の配置で森の林床を再現し、室内でも屋外のように木陰でリフレッシュしたり、ベンチで息抜きをしたり、本を読んだり、話をしたりなど、人々のギャザリングスペースとなる空間を目指している。日本の在来種を用いた樹種を植栽することで、地域に根ざした空間を目指すとともに、室内に森の林床を再現している。連なる6～8mの高木は、室内とは思えないような緑量を生み出し、初めて訪れる人々にインパクトや驚きを与えると同時に、癒しとリラクセスを与え、コミュニケーションしやすい環境を提供している。新たな緑化空間の創出が高く評価され選ばれました。
(一社)日本インドア・グリーン協会理事長賞	森のコミュニティスペース	東京都千代田区	前田建設工業株式会社 ダイワリース株式会社	100周年を迎えるにあたり、次の100年に向けた新たな挑戦「CHANGE!」をテーマに生産性改革や体質改善などを進める中で、従業員の働き方改革を求め、今までの建設業界のオフィスのイメージを打破する緑の多い室内空間を造っている。緑化計画のテーマは「森」、バイオフィリックデザインを採用し、ベニシダやプミラなど、森に自生する植物を採り入れ構成し、照明角度で陰影をつけることで森の中を表現している。水仕器から流れる水音は「1/fゆらぎ」のリズムで安らぎを与え、働く人に居心地の良いオフィス空間を実現している。多様な屋内緑化は日本インドアグリーン協会の活動内容に合致するため選ばれました。
(一財)日本花普及センター会長賞	e-Agency有楽町本社及び五反田オフィス改修プロジェクト	東京都千代田区 東京都品川区	株式会社緑演舎	有楽町は社員同士が「雑談ができる場」がテーマ。シンボルツリーのアーケード、仕切り壁部分は壁面緑化を施し、天井と壁面を藤蔓で覆うように一体化することで、洞窟のように空間全体を緑でつつんでいる。行かなくても良いのに行きたくなるオフィスを演出している。五反田は「静けさと集中」がテーマ。オフィス内に竹林、土壁、田園風景や集落、といった日本の原風景を再現し、棚田エリアの水景やネイチャーアクアリウムといった水を使った演出もある。植物とインテリアを融合させエリアごとを自然につなぐことでこれからのオフィスの在り方を提案している。種々の緑素材を有効に使用しており選ばれました。
(公社)日本家庭園芸普及協会会長賞	せせらぐ自然のショールーム	神奈川県小田原市	株式会社日比谷花壇 神奈川トヨタ自動車株式会社	自動車ディーラーのショールームにおいて展示車を1台も置かないという大胆な発想で、建物内外に緑を主役として取り入れている。「自然を感じながらくつろげる空間」をコンセプトに地域に根差した新しい形のショールームを目指している。目に飛び込む豊かな植栽と水景、耳から入る川のせせらぎや小鳥のさえずり、空気の流れにもこだわった室内は、まるで自然の中に身をおいているかのように、五感をくすぐる心地良いデザインになっている。壁面緑化やワイヤー緑化など特殊緑化技術を室内外に広く採用し、室内に広がる緑空間を外観から期待させるような植栽となっている。外部からの景観にも配慮し見ている人の家庭にも緑を入れてみたくなる演出が協会の活動内容に合致するため選ばれました。
(一社)日本ハンギングバスケット協会理事長賞	緑のカーテンのあるこども園	広島県広島市	パルー級建築士事務所 一級建築士事務所町田ひろ子アカデミー 株式会社プラネット	園は0歳から5歳までのこども達が過ごす「もう一つの家」であり、緑化のテーマは：Love of Nature [自然愛]。バイオフィリックデザイン、生命あるグリーンインテリアと共に育つよう生長する緑化、感性教育とインテリア環境を重視したトータルな色彩計画、木という自然素材から体感できる温もりと触感、そして安心、安全な保育を重視している。自動灌水システムの採用とそのシステムを隠さず見せて、一緒に成長を観察してもらえる工夫がなされている。さらに、グリーンメンテナンスに加え、ストレスアナリスト資格者が、定期的にグリーン環境調査を実施する体制を構築している。棚上から垂れ下がる緑の演出は協会の活動内容に合致するため選ばれました。
屋内緑化推進協議会会長賞	沖縄電力新本館 エントランス 壁面緑化	沖縄県浦添市	株式会社グリーンウィンド 株式会社沖縄開発	従業員、関係者やお客様が必ず通過する車寄せやエントランスホールに壁面緑化を設置している。アマハジテラス（半屋外）では水の流れるひんぷんの両サイドに2カ所の壁面緑化を設置し従業員、来訪者を出迎え、エントランスへといざなっている。エントランスホールの壁面緑化は、『躍動』、『植物の生命力』をコンセプトとし、バイオフィリアデザインの観点から沖縄らしい華やかさの演出のため、使用する植物の色あいに配慮が見られる。灌水については、自動灌水タイマーと、流量制御アダプタ、ペグを組み合わせ、水資源の有効利用に努めている。植物種はカラー、形状等多様な配慮を行い、節水にも果敢に取り組んでいる姿勢が評価され選ばれました。

作品部門 (A)

緑の取り組み部門受賞者

授賞		タイトル	所在地	受賞者	受賞理由
緑の 取組 み部 門 (B)	屋内緑化推進協議会 会長賞	空港 グリーンイ ノベーション	福島県石 川郡玉川 村	福島県立岩瀬農業高等学校 環境工学科 株式会社グリーバル	環境工学科では、福島イノベーションコースト構想の事業の一環として特殊緑化事情を学習し、成果の実践場所として空港（福島空港）が選択された。現地調査、計画、施工と実践的な授業を実施し、緑溢れる空間を提供し、利用者の満足度を高めていく事を目標に室内への植物設置に取り組みました。生徒達は、候補に選ばれた施設（福島空港）に出向き、グループ毎にプランをまとめ授業で発表。専門家からのアドバイスを受け、プランをブラッシュアップし、空港ビルに提案しました。実習施設では、本物の植物での室内緑化が難しい壁面や暗い空間にも配置の要望が有り、観葉植物による緑化の他、フェイク（偽物）植物による緑化等柔軟に対応し実施したことは緑への取り組みとして高く評価されえられました。
	奨励賞	未来につなぐ —室内グリーン化 の取り組み—	福島県 いわき市	福島県立磐城農業高等学校 緑地土木科 株式会社グリーバル	東日本大震災から10年目を迎え、今年度は学習の成果を示せる場として震災の記憶を伝える市内施設（いわき震災伝承みらい館）が実習の場として選ばれました。高校生が授業で得た知識を元に、自ら（チーム）で考え、計画・発表をし、専門家のアドバイスの元、実習場所で室内緑化を実践する事は、地域連携、地域貢献の好事例と言え、SDGs の取り組み（4・質の高い教育をみんなに、11・住み続けられるまちづくりを、15・陸の豊かさを守ろう、17・パートナーシップで目標を達成しよう）などにも大きく寄与した取り組みです。今後もこのような活動が継続して進められることを願い奨励賞に選ばれました。
	奨励賞	緑でつなぐ地域コ ミュニティ	福島県双 葉郡富岡 町	福島県立磐城農業高等学校 緑地土木科 株式会社グリーバル	今年度は成果を示せる場として、東日本大震災と原子力災害の影響で長らく帰宅困難地域になり、その後避難指示解除となった富岡町の施設（文化交流センター 学びの森）が実習の場として選ばれました。現地調査、計画、施工と実践的な授業を実施し、同センターと打合せの元、室内への植物設置に取り組みました。実習予定施設は緊急避難場所も兼ねており、利用頻度の低い場所や喫煙室、図書館など暗い場所や灌水の出来ない場所がある施設であるが、その様な場所こそ緑を配置した方が良いと生徒からの提案も有り、植物を配置し、来所者に癒しになって貰えればとの意見も有り、観葉植物による緑化の他、フェイク（偽物）植物による緑化にも計画しました。柔軟な対応による緑への取り組みとして高く評価され奨励賞に選ばれました。